

令和6年度第1回 旭川市総合戦略検討懇談会 議事録

日時 令和6年7月18日（木） 午後6時00分から午後7時30分まで

場所 旭川市役所総合庁舎 大会議室C

出席者

・参加者（参加者名簿順）

黒川 伸一 氏, 工藤 直志 氏, 小原 隆 氏, 荒山 恭一 氏, 井上 和広 氏, 種田 仁郎 氏
柏葉 健一 氏, 市川 陽一 氏, 西 康子 氏, 赤松 昌輝 氏, 長尾 英次 氏

・オブザーバー

北海道財務局旭川財務事務所長 田口 明宏 氏

北海道開発局旭川開発建設部地域連携課長 気田 堅実 氏

北海道運輸局旭川運輸支局首席運輸企画専門官 宮崎 嘉夫 氏

北海道農政事務所総括農政推進官 館下 輝一 氏

北海道経済産業局総務企画部企画調査課地域連携室課長補佐 田中 康弘 氏

北海道上川総合振興局地域創生部長 寺山 善規 氏

北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所地域研究部主査 石井 旭 氏

・事務局

総合政策部次長 北嶋 一雅

政策調整課主幹 狩野 大助

政策調整課主査 石田 直紀

政策調整課主任 村上 潤知

政策調整課 山下 祥生

会議の公開・非公開

公開

傍聴者 なし

会議資料

資料 1 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価検証結果報告書（案）

資料 2 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略第 3 期策定に向けて（案）

資料 3 地方創生関連施策を活用した事業の実施状況の報告及び検証について

参考資料 令和 5 年における旭川市の人口動態について

会議次第

1 開会

2 議題

（1）第 2 期総合戦略の評価検証について

【A氏】

女性の社会減が多い要因についてはどのように考えるか。

【事務局】

定量的な把握は難しいが、地方に比べ大都市に女性が活躍できる場があること、企業の地方拠点が減少し、女性事務の雇用減少などという話を聞いている。

また、男女問わず15歳～29歳の転出が多くなっており、進学と就職のタイミングで転出する若者が多いと推測される。

【B氏】

地場の企業の年収が上がらなければ、例えば市立大学ができて、若者が旭川に就職してくれるか疑問である。そのための環境づくりを官民連携の中で取り組む必要がある。結果の議論に加え、方向性を示すことが重要と考える。

また、転出者に対するアンケートなどを取ることで、目標設定をすることも重要と考える。

【事務局】

そうした環境づくりは行政だけでできるものではなく、雇用や賃金の話も含めて、民間企業、行政、教育機関等と連携する視点が需要であると思う。御意見を踏まえながら取り組んでいきたいと思う。

アンケートなどの調査は、今後、北海道立総合研究機構と連携して調査を予定しているので、その際の参考とさせていただく。

【C氏】

転出者に対するアンケートという話があったが、逆に定住している人からの意見を聞くというのも有効と考える。定住の理由は参考になると思う。

【D氏】

女性の活躍について、自分の望む仕事があれば、企業の支援などを通じて女性起業家を増やす取組も重要と考える。自分の知っている中では、女性に移住やUターンして企業している人が多いので、企業で女性が活躍する場を用意するのが難しいのであれば、起業する女性を支援する環境を充実させることで、大学卒業後に起業、定住することにつながるのではないかと考える。

【事務局】

昨年度から市でも女性活躍推進部を立ち上げて、女性起業家の支援を実施しているほか、今年度では女性のキャリアや、子育てや仕事のバランスなどに関する悩みを相談できるような支援の充実を図っている。

一方で、もともと産業創造プラザや産業振興課などで起業の支援を行っているので、部局間や施策間の連携を図りながら、市として引き続き支援を行っていきたいと考えている。

【E氏】

移住施策については、KPIの目標値設定が低すぎると思う。

地場産業が弱いことと、就職に大企業志向があることが、若者が転出していく要因であり、魅力ある企業づくりをしていかなければならない。

DXについても各分野で遅れており、次の計画では明確に打ち出すべきで、離職が激しい介護についてもDXが進んでおらず、DXに取り組む事業所に対しても支援がない。

こうしたことに一つ一つ細かく対応しないと人口減少は歯止めがかからない。例えばほかの自治体でやっているようなアプリケーションを使った仕事のマッチングなど、新しい取組についても考えていく必要がある。

まずは移住施策の目標値設定の見直しからするべき。

【事務局】

次期戦略策定作業の中で、担当部局と協議しながら検討したい。

【F氏】

旭川市は、美しい自然環境や、家具・デザインなど、良いものを持っている中で、GX・DXを次期総合戦略に大きく取り込んでいくことで、若い人たちにより魅力ある発信ができる素地があるように思う。

また、GX金融資産運用特区に札幌市そして北海道全域が指定されることになったが、旭川市でもGXを強く打ち出して行くべき。

【事務局】

第3期総合戦略においては、GX・DXをより明確に表現として打ち出したいと思う。

（2）第3期総合戦略策定の方向性について

【B氏】

総合計画基本計画における重点テーマはすでに決定されているものか。

【事務局】

昨年度の改訂を経て、現在すでに決定されているものである。

【F氏】

スケジュールについて、10月下旬の懇談会に総合戦略改定案を出すとのことだが、初見で意見を出せるか。

【事務局】

今回は1週間前の配付としているが、参加者には事前にできるだけ早く資料を配付し、お手数であるがよく読んでいただいた上で、懇談会当日に意見をいただきたいと思う。

【進行役】

第2期総合戦略のKPIは未達が多かったように思うが、未達のKPIを広範に修正することか。

【事務局】

変えるべきものは変え、変える必要のないものは据え置くが、今後検討していく内容となる。

例えば、出産・子育て・育児の希望を叶える基本目標1の数値目標について、理想子ども数と、現実子ども数のギャップの解消を設定することについて検討している。

また、KPI自体コロナ禍でかなり影響を受けており、達成度合いが低いものは担当部局と確認して、目標値の検討をしたい。達成しているから変えない、達成していないから変える、ということではなく、全体を通して見直しを図りたい。

【進行役】

市の方向性として、人口を増やしていく施策をとるのか、それとも人口が減るのは仕方ないこととして、その中でまちづくりをしていくのか、どちらを目指すのか。

【事務局】

人口を増やしていくというのは極めて難しいと思っているが、例えばDXによって産業人材不足を補うことなど、人口減少が進む社会に適応するための取組と、子どもを望む人が子どもを持てるようにするなど、人口減少を抑制する取組の双方を両輪で進めて行く必要があると思っている。

【G氏】

自分にも答えがあるわけではないが、総合計画の3つの重点テーマの内容について、毎回同じようなことを言っているような気がする。3つの重点テーマの内容も大事なことであり、というのは理解するが、起爆剤としての新たなコンセプトが必要ではないかと思う。

以前テレビで島根県の離島のまちづくりというのを見たが、官民連携でまちづくりを命がけでやって、成功したという話で、このようなことを参考にする必要があるのではないかと感じた。

このままでは毎度同じように、KPIが達成できないことの繰り返しになってしまうと思う。

【事務局】

お話にあったのは、島根県の海士町の話だと思うが、まちづくりの軸の一つに高校があり、その島に若者が惹かれる魅力の一つは、社会の中で自分が役割を持てて活躍できる、経験できることであると感想を持った。

旭川市では、地域学校協働活動において、地域と学校の生徒を繋ぐなどにより様々な経験を提供しており、こうした取組にヒントがあるのではないかと考えている。

また、Uターンする理由の一つとして、まちや人に育ててもらったという恩のようなものがあるのではないかと考えている。

こうしたことを総合戦略においてどう表現するかは、難しい面があるかもしれないが、何かアプローチできないかと考えている。

【C氏】

小さな町村でできることと、中規模な旭川市でできることとは事情が異なるのが現実であると思う。

市内に色々な業種業態がある中で、PRするにも焦点がぼやけるのは仕方がない部分はあるし、何かをメインにすると、ほかの産業が反対するということもあると思う。

圏域だけで生活の全てが成り立つというほかにない特徴があるので、そうした魅力を含め、焦点を絞ることの難しさをいかにクリアするか、具体的な施策にするかが重要である。

旭川市の利便性を活かして、近隣の市町が人口を増やしているというのは事実であるので、そうした状況を活かして手を打つというのも必要だと思う。

【事務局】

本市の特徴の一つであるデザイン都市については、今年もネットワーク会議の開催など取り組んでいるので、産業分野横断的に旭川市に根付いていけるような取組にしていければと考えている。

【D氏】

旭川について昔から住んでいる人に話を聞くと、他の街にはあって旭川にはないということをよく言われるが、私は旭川がこの辺では横綱であり、周辺町といちいち比較する必要がないと思っている。周辺町が子育て支援を充実させているのも、前提として旭川市の都市機能があると思っている。

KPIや数値目標は毎年未達となっても、掲げることは大切で、施策を必死に進めることが重要だと思う。

私は移住を検討するに当たって、転勤族の奥様が発信する情報をインターネットで参考にした。市民広報やインターネットにおいて、例えば移住組転勤族の奥様による、旭川の良いところも悪いところも伝える情報のコーナーを作るなどの取組が、移住促進には必要なのではないか。

また、女性の視点は重要なので、検討懇談会にもお子さん同伴で来ることができるようなれば良いと思う。

【事務局】

周辺町と比較することはないという意見をいただいたが、旭川市は圏域の中核都市であるので、近隣町とは本市の都市機能も活用していただきながら連携する関係だと思っている。

今後連携中核都市圏の枠組みで、互いの強みを活かしながら、連携して取組を進めていければと思う。

広報や会議の御意見は参考にさせていただく。

【F氏】

人材不足は常態化しており、今後の総合戦略を考える上でも、単純に日本人や地場の人間の人口を増やすということだけではなく、外国人、特定技能労働者を積極的に求めていく必要があると思う。

【事務局】

御意見については策定作業において、文言等含め検討したい。

（３）地方創生関連施策を活用した事業の実施状況の報告及び検証について

【Ｂ氏】

ICTパークについて、最初に作ったときの目標は、eスポーツの世界大会まで開催して、旭川からチャンピオンを出すことであったと思う。現在の使い方は真面目すぎて、本当に稼げるのか疑問である。

【事務局】

ICTパークは、eスポーツによる、中心市街地における賑わいづくり、プログラミング的思考によるIT人材の育成を担う拠点として設置している。

現状では会場収入がメインとなっており、eスポーツのスポンサー料の獲得には至っていない。

どういったタイトルを使って集客を図れるかということも含め、民間企業にスポンサーとしてついていただけるような取組を進めて行く必要がある。

また、スタートがコロナ禍で遅れてしまったという状況もあるため、現状収益化というところまでいっていないが、ICTパークは特色ある事業と考えているので、地道に取り組んで行きたい。

【Ｂ氏】

取組を継続的に行うことで、集客につながると思う。観光コンテンツの一つとして、市内観光の呼び水とすることも必要ではないか。

【事務局】

eスポーツや教育のほか、イベント開催に広く使っていただけるように検討したい。

【Ｆ氏】

ICTパークについて、教育施設なのか、観光で使えるのか、位置づけがはっきりしない。修学旅行のコンテンツに入れて販売するなど積極的に利活用してほしい。

【事務局】

さらなる積極的な利活用について、今後検討したい。

（４）その他 なし